

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社理念である「コミュニケーション」では日々の関わりを大切に「生活リハビリ」では体操等だけではなく、日常生活での行動でもリハビリにつなげられるよう努めています。	全体会や委員会等で理念を共有し、時々理事者から理念についての話などがあり、確認し合っています。利用者と職員が料理や掃除等を一緒に行うなど、日々のケアに理念が反映されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍ということもあり行事等参加はできていませんが、定期的に連絡は取り合っています。おんべや地域清掃のお誘いをいただきましたが、県警戒レベルの上昇と重なり参加できませんでした。	どんど焼のお誘いなどがあり、行事の寄付等行い、区長や地域の消防団長との定期的な連絡等はとり合っています。リンゴのお裾分けなどあり、普段の生活の中でのお付き合いもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍のため、地域の方々と話し合いができていないのが現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	家族代表、民生委員、包括支援センター職員さんに出席していただき、利用者様の状況、健康状況、苦情、事故状況、収支状況を報告しております。意見をいただいた際は、サービス向上にむけて努めております。	ヒヤリハットが少ない、お茶は熱い湯をお出ししているが見守りをしっかりしたらどうかなど、意見が出され、職員会にて話し合っています。今後、外部評価受審後の報告等行い、運営推進会議がモニタリングの場としての取り組みを計画しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度の運営推進会議に、地域包括支援センターの職員さんに出席していただいております。	事業所の様子やサービスの取り組み方など、折に触れ相談をしています。コロナの検査薬の無料配布を受け、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修実施計画にて、3カ月に1回身体拘束ゼロの手引きをもとに社内研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	事業所の固有のリスクを把握し、危ないから鍵をかけるのではなく、利用者が外へ出ていく理由を知るなど、気づきを持つことが出来る研修などを定期的に行い、全職員の共有認識を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者および職員は、3カ月に1度研修会を行い、虐待が行われないよう注意を払い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が権利擁護の研修を受け、その内容をもとに事業所で研修会を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者、家族に契約書や重要事項説明書を読み合わせ、理解・納得をしていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にてご家族様代表に参加していただいたり、ご家族様に電話をして、意見や要望をお聞きするよう努めております。	事業所の畑で何を育てたいか、誕生日にしたい事など、利用者から意見を聞いています。家族等からは、運営推進会議の家族代表意見や電話等で聞き、全体会等で話し合い、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全体会議を行い、そこに開設者が出席し、運営や業務について意見、提案をしております。	理事者は、全体会や委員会にて意見など積極的に聞いています。職員が意見等を言いやすく、また働きやすい事業所であるように、理事者は職員の意見を聞き取り運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	開設者が定期的に現場の状況を確認し、また職員の意見の聞き取りを行い、職場の環境・条件の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修や実務者研修、法人外の研修も、希望があれば勤務しながら受けられるよう機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍のため機会は少ないですが、研修会に参加した際など交流ができるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所決定時から面会させていただき、本人様の困りごと、不安なことをお聞きし、ニーズにあった対応ができるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様に現状等お聞きし、できる限り要望に応えられるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約時にご本人様とご家族様のニーズを確認し、その方にあつた支援ができるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホーム下瀬では食事の準備や掃除、洗濯物等職員だけが行うのではなく、利用者と一緒に行うよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍ということもありますが、この状況でもできることは、ご家族様に協力していただき、お花が好きということで毎月お花を送っていたり、本人様の好きな食材を送ってくださったりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人等連絡はきておりますが、コロナの警戒レベルが下がらず、泣く泣くお断りするのが現状です。	友人や近所の人との交流は、コロナ禍のため積極的には出来ていません。その中で、本人を支えてきた関係を継続できるよう、家族や知人と連絡をとるなど、出来る限り継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は利用者同士の言動に注意し、介入をしておりますがトラブルは稀です。9名全員が仲良く生活でき、協力して生活をされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了したからといっても関係性が終わることはないので、相談や支援の要請があれば対応させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーション等で、日々の思いや暮らし方の希望をお聞きし、一人ひとりの意向の把握に努めております。	職員は、コミュニケーションをとりながら、日々の生活の中で思いや希望を聞いています。意向等は、支援経過に記録して、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所の面談時に今までの生活状況を、本人やご家族様、担当のケアマネージャーに確認しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活の状況を日々観察、また変化があるようなら記録し、その方にあった生活ができるよう状況の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常の様子を観察し記録に残し、昔からの趣味や、今何がしたいのか、日々の生活での発見等を活かし、職員や家族と話し合い計画をしております。	一人ひとりの生活に沿って、食事時は野菜の皮むきや盛り付けを手伝ってもらう、食堂や廊下を掃除するなど、利用者主体の計画となっています。日々モニタリングを行い、期間の見直しではなく、常に見直しを行い、チームで作る計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	株式会社たまゆらでは介護ソフト・介護システムほのぼのを導入しており、生活の様子、ケアに対しての様子を記入しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍ということもあり、現状でのサービスの対応となっております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握には努めておりますが、コロナ禍ということもあり、地域資源を活かせておりません。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所の面会にてご本人様、ご家族様の意見を尊重し、今までのかかりつけ医を利用されたり、ご家族様の負担にならないよう相談をしております。そこからかかりつけ医と密な連携がとれるよう努めております。	かかりつけ医の他、事業所の協力医の受診が受けられるようになっていきます。通院介助は家族又は職員が行い、看護記録に明記し、様子を伝えるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時や異常時、また日常での変化がある際は相談、報告を行い、指示を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報交換、相談を行い、利用者様が安心して治療、退院ができる環境作りに努めております。入院中にも病院関係者と定期的に連絡をとり、関係づくりに努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時から重度化に対応していないこと、共同生活が困難になってきた時は、次の施設への申し込みと住み替えをお願いしています。その関係者には本人の状況や好み等詳しく伝え、暮らし方やケアの継続性等に配慮して頂けるよう働きかけています。	事業所が出来る支援を家族等に説明し、重度化や終末期に向けた方針を、家族等及び利用者と一緒に定期的に話し合いを行っています。なじみの関係の中で、本人にとってより良い状況を重度化や終末期に支援できるよう、生活支援を通じた日々の関わり方の研修を計画し、支援に取り組むよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修を定期的に行い、緊急時マニュアルに沿って対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在、株式会社たまゆらではBCPにて自然災害時の事業継続計画を作成しており、各地域の事業所同士で作成しております。そのこともあり全体会議にて、避難の方法や手順等を職員全員で相談や周知を行っております。また年に2回消防訓練を行い、避難等の確認をしております。	様々なリスクを想定したBCPの作成に取り組んでいます。地震や消火器の訓練を、利用者と一緒に年2回実施しています。実施後の課題を明確にし、記録しています。	計画書を作成し、BCP対策に取り組んでいます。年2回の訓練実施後、課題を明確にしてありますが、更にこの課題を次の訓練に活かす対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの日々の言葉かけや対応に注意して、その人の性格や誇りを尊重し対応しております。	トイレへの誘導の際は、声掛けに注意を払うなど、コミュニケーションを通じて利用者一人ひとりに合った対応を心がけています。倫理綱領があり、倫理及び法令順守に対する研修を行い、人権意識の徹底に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常での会話から希望を聞くだけではなく、日常の会話から本人が思いや希望を言っていたりできるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホーム下瀬では、ご本人様のペースに合わせ、施設の雰囲気ではなく家庭的な雰囲気で生活できるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望にそって衣類を選んでいただいたり、自分で整容ができる環境を整えています。また送迎を行い、自分の欲しい服を買いに行くこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日会等の行事で希望の食事をお聞きし、皆様で協力し合っています。普段では、お茶の準備をしていただいたり、盛り付けや野菜の皮むき、下膳や洗い物を協力しておこなっています。	誕生日の希望献立、郷土料理の五平餅や事業所の畑で収穫した野菜などを使った料理、近所からのお裾分けなどの材料を利用者と一緒に調理して、利用者が盛り付け、職員と一緒に美味しいものを美味しく食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士により作成された献立メニューに沿って、毎食作っております。水分量も記録し、夜間に水分が必要な方にも提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、補助が必要な方には声掛けや一部介助を行っております。義歯の方は夜間入れ歯洗浄剤を使用しております。また必要に応じて社内の歯科衛生士に相談しております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	グループホーム下瀬では、大半の方が自立されていますが、失敗することはあります。失敗をできる限り少なくできるよう、職員が定期的に言葉かけをし促しております。	多くは自立されている利用者ですが、失敗した時は部屋でそーっと替えたり、リハビリパンツは定時確認をして、経過記録に記載して支援しています。自立していても関わりを持ちながら状況を把握し、職員で共有して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分は多くとってもらうために、同じ飲み物だけではなく、味を楽しめられるように工夫しております。また栄養士と常に相談し、食事では食物繊維の多い食材を提供できるよう努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	指定の曜日、時間にて入浴を行っているのが現状です。	長風呂の好きな利用者、さっと入りたい利用者、其々の好みに応じた入浴支援をしています。季節に応じた、ゆず湯やかりん湯にも入り、思い思いの入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具は馴染みの物をもってきて頂いております。夜間しっかり休めるよう、日中はレクリエーションや作業に参加していますが、睡眠や休息はご本人様のペースでしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的を理解し、主治医と密に連携をとり、変化があるようなら随時報告をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人の生活歴や身体機能の状況に合わせて、畑作業をしていただいたり、縫物をしていただいたりして、役割や楽しみ事ができるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍であるため外出も制限されておりますが、警戒レベルが下がった際は、家族と一緒に、食事や馴染みの場所に出かけられるように支援しております。	郷土の祭りのお練り祭りやおにぎり持参の紅葉ドライブ、お花見ドライブに出かけています。寒い時期は、事業所の周りを散歩したり、日向ぼっこを楽しんでいます。又通院時に家族と食事をするなど、コロナ禍の中、充分注意して外出しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方が、ご家族が管理しています。必要時ご家族に対応していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には対応できるよう環境を整えています。また手紙を下されたご家族様にお返しできるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられるよう、職員が利用者様と一緒に、手作りで飾りつけを作成しております。	壁には、利用者と一緒に作ったコスモスの切り絵が飾られ、台所で食事の準備をされる利用者、ゆったりと雑誌など読まれる利用者、思い思いの日常生活を過ごされています。フロアの窓からは、畑の野菜が眺められ、居心地のよい場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになれる空間は居室ですが、各々が食堂で過ごしたり、他の方を自分の居室にお呼びし、外の景色を見ながらお話をされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に布団やベットは、今まで使用していたものをもってきていただいたり、中にはタンスや仏壇を持って来られる方もいらっしゃいます。	居室はきれいに掃除され、ベットを使いたい人、敷き布団を使いたい人、使い慣れたベットや布団、タンス、仏壇も置かれ、その人らしい居室となっています。窓からは野菜畑や紅葉の山々が眺められ、居心地の良い場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室には、名札や居室名を花の名前にしており、分かりやすい工夫にしております。また移動時転倒がないよう、歩きやすいような物の配置になっております。		